
第3次 富山市総合計画
—基本構想(案)—

<令和8年8月5日時点>

基本構想

第Ⅰ部 総合計画の概要／4

- 1 総合計画策定の趣旨／4
- 2 総合計画の位置付け／4
- 3 総合計画の構成と期間／5

第Ⅱ部 富山市を取り巻く環境と課題／6

- 1 わが国を取り巻く状況と富山市における方向性／6
- 2 富山市の人口の将来見通し／8
- 3 富山市の財政状況／10

第Ⅲ部 基本構想／12

- 1 将来の都市像／12
- 2 10年後の市民が実感している幸せ—分野別のありたい姿／14
- 3 富山市の暮らしを支える都市のかたち／30

市長あいさつ

第Ⅰ部 総合計画の概要

1 総合計画策定の趣旨

これまで富山市は、人口減少が大きな課題となる前から強い危機感を抱き、全国に先駆けて「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を中心施策に据え、第2次総合計画に基づき、総合力の高いまちづくりに取り組んできました。

一方、富山市を取り巻く環境は近年大きく変化し、市に求められる行政需要がますます高度・複雑化するなか、課題も多様化しています。

少子高齢化や人口減少の進行に伴う地域のつながりの希薄化、担い手不足、そして価値観の多様化による合意形成の困難化など、私たち一人ひとりの生活に直結する「ひと」に関する問題が次々と生じています。

また、空き家や空き地の急速な増加や老朽化するインフラ、化石燃料に依存したエネルギー構造、そして頻発する自然災害など、暮らしの土台に直結する「まち」の問題も山積しています。

これらの問題に対応するためには、これまでの取組を継承しつつ、スマートシティ政策によるDXの推進を軸に、さらに発展・深化させ、様々な施策を効率的に実施していくことが必要です。

これからの富山市が、多くの人を惹きつける魅力ある都市として輝き、多くのひとが自分らしく幸せを感じ、その幸せを未来へと引き継ぐ都市となるため、第3次富山市総合計画を策定します。

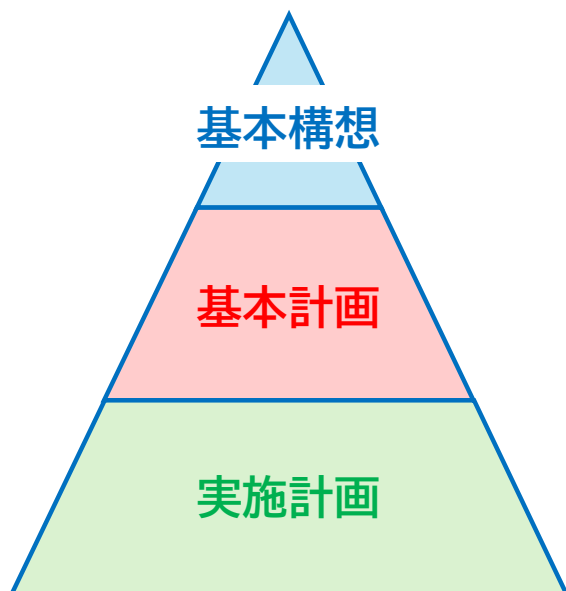
2 総合計画の位置付け

富山市のまちづくりにおける長期的かつ基本的な方向を示すものであり、目指すべき都市の将来像を明らかにし、その実現に向けた行動の指針として位置付けます。

また総合計画は富山市の最上位に位置付けられる計画です。そのため各種個別の計画においては、本計画の内容を遵守するとともに、既存の計画については必要に応じて見直すものとします。

3 総合計画の構成と期間

総合計画は「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」で構成します。



(1)基本構想

基本構想では、長期的な展望のもとに将来の都市像と、市政における分野別のありたい姿(ビジョン)を示します。令和9年度を初年度とし、令和18年度を目標年度とします。

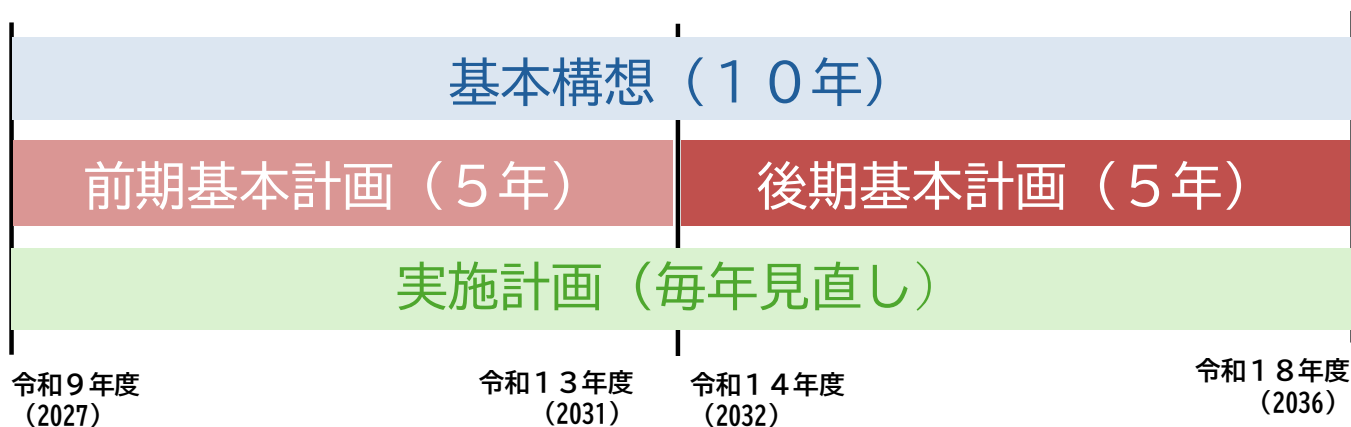
(2)基本計画

基本計画では、基本構想を実現するため、施策の体系化を行い、現況と課題を整理し、施策の内容、目標とする指標を示します。令和9年度から令和13年度までの5か年を前期計画、令和14年度から令和18年度までの5か年を後期計画とします。

(3)実施計画

実施計画では、基本計画で定める施策体系に基づき、具体的な事業の年次計画等を示します。基本計画に沿って、前期・後期計画の各5か年計画をローリング方式により毎年見直ししながら、実効性の確保に努めるとともに、諸情勢の変化に的確に対応した計画を策定します。

第3次総合計画の期間は令和9年度から令和18年度までの10か年とします。



1 わが国を取り巻く状況と富山市における方向性

わが国を取り巻く状況は、社会・経済・環境など幅広い分野で変化しつづけています。第3次総合計画では、これらの変化に対応できる計画とする必要があります。

少子高齢化の進行



当面は高齢者人口が**高止まり**し、年少人口と生産年齢人口は減少が加速することで少子高齢化が進行

これからの方向性

持続可能なまちづくりにはデジタル技術の活用により「コンパクトなまちづくり」を深化させる必要があります。

こどもを中心に据えた社会づくりの機運の高まり



令和5年度、こども家庭庁が発足し「こどもまんなか社会」の実現を宣言

これからの方向性

「こどもまんなか応援サポーター」を宣言している富山市においても、こどもを中心に据えた施策の展開が必要です。

デジタル技術の進展



AIをはじめとしたデジタル技術の急速な進歩と、日本の行政におけるデジタル化の遅れ

これからの方向性

地域課題解決や行政運営の効率化を実現するため、DXの取組を推進する必要があります。

激甚化する災害



甚大な被害をもたらす地震や台風、集中豪雨など大規模自然災害が多発

これからの方向性

防災に向けた基盤整備や「自助・共助・公助」の災害対策、災害時に迅速に対応できる体制構築が必要です。

脱炭素化の必要性の高まり



パリ協定に基づき、わが国においても2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロが目標

これからの方向性

脱炭素社会の実現に向け、**省エネルギー化やGXの推進など**、地域が一体となった取組が必要です。

公共施設の老朽化



高度成長期に整備された公共施設やインフラについて、全国で一斉に更新時期が到来

これからの方向性

社会インフラの長寿命化や更新に向けて、緊急度・重要度を踏まえた賢い対策が必要です。

地域社会の多様化



国籍や文化の多様化が進む中、互いの違いを認め合う多文化共生の社会づくりが課題に

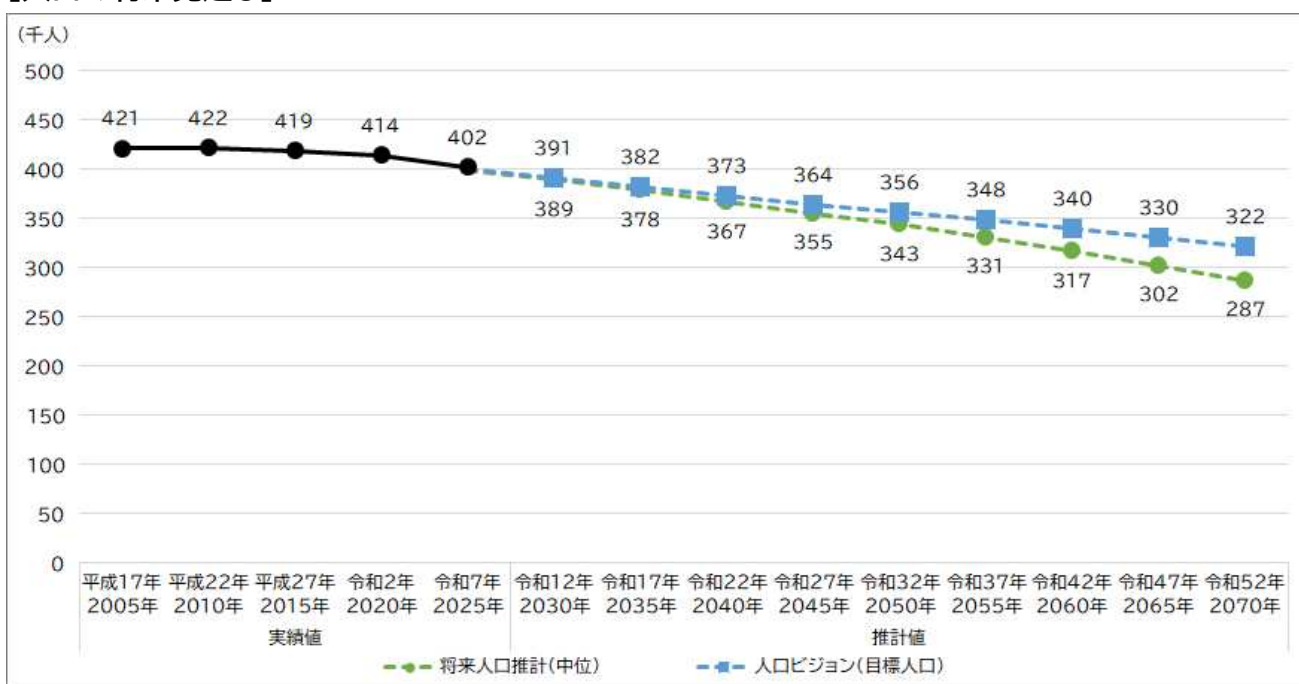
これからの方向性

国や県とも連携しながら、**お互いの「違い」を尊重し**、誰もが暮らしやすい社会づくりに取り組む必要があります。

2 富山市の人口の将来見通し

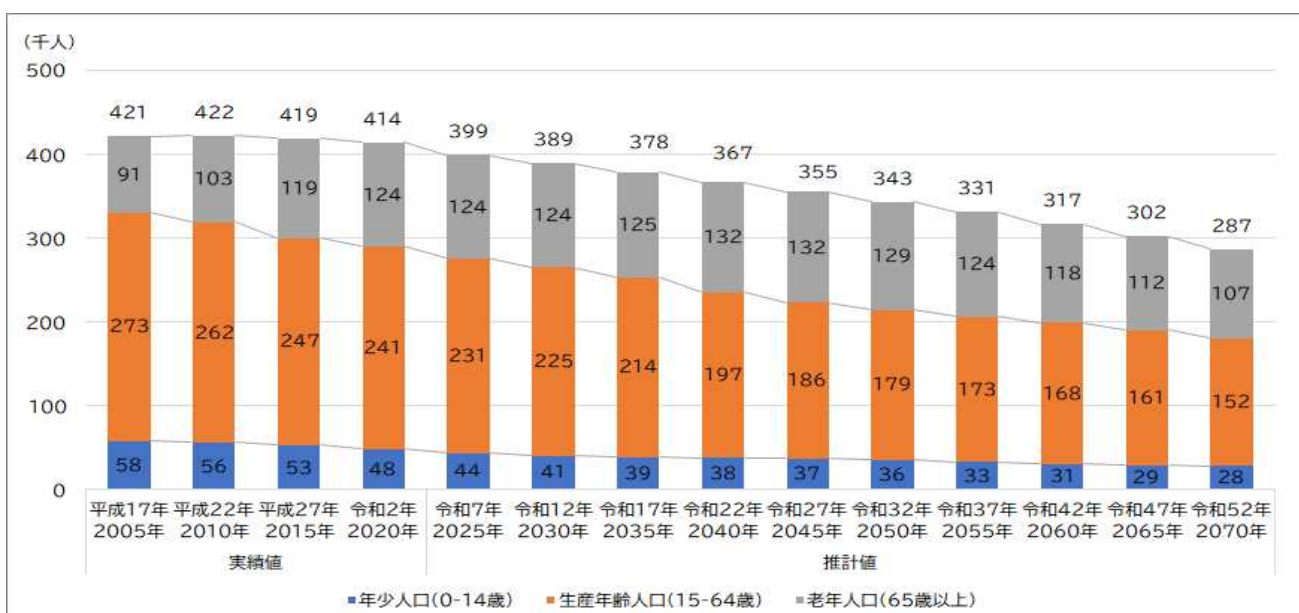
- ・ 富山市の人口は平成22(2010)年の約42万2千人をピークに減少に転じており、将来人口推計によると令和52(2070)年には約28万7千人と30万人を下回ることが見込まれています。
- ・ 富山市が令和7(2025)年3月に策定した「富山市人口ビジョン」では、令和52(2070)年に人口32万人程度を目標人口として設定しています。
- ・ 「富山市人口ビジョン」では、目標人口達成に向けて、出生率を令和22(2040)年までに富山市民の希望出生率である1.74、令和42(2060)年までに人口置換水準の2.07を目指す必要があるとしています。

〔人口の将来見通し〕



- ・ 年齢構成別人口は年少人口(0-14歳)・生産年齢人口(15-64歳)の減少が続く一方で、高齢者人口(65歳以上)は令和27(2045)年まで高い水準が続くと見込まれています。

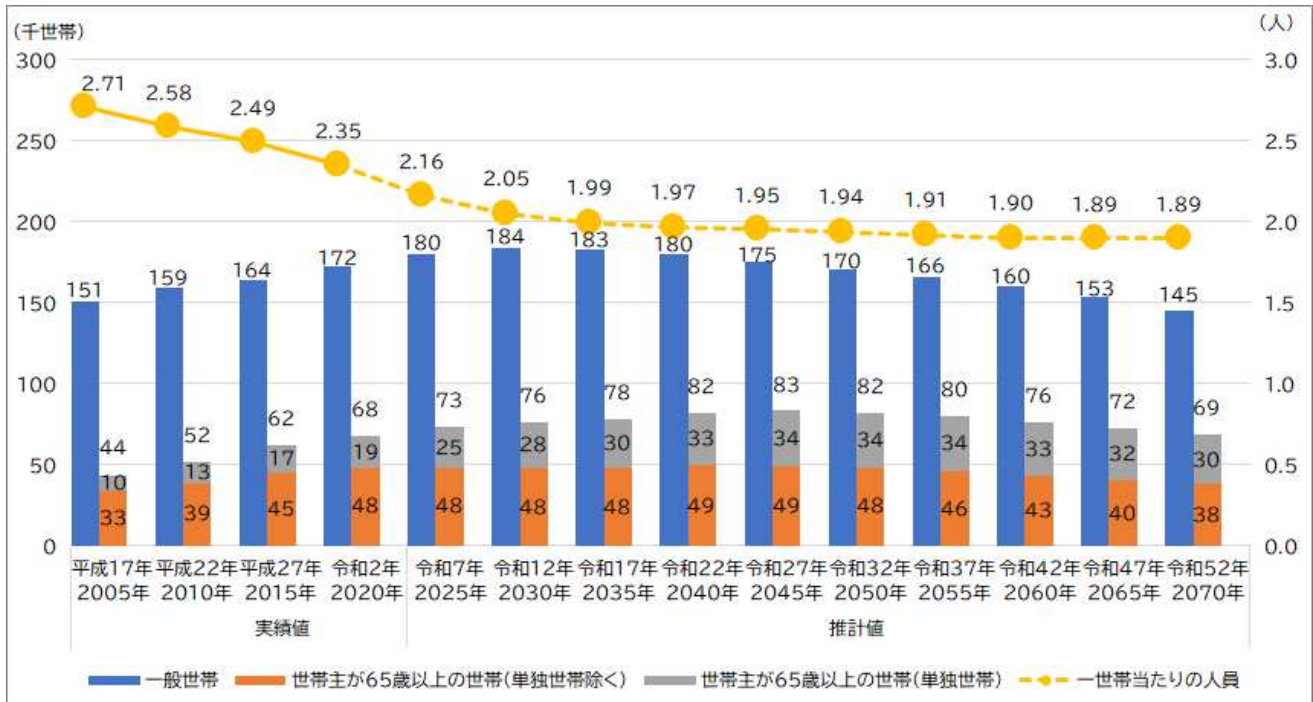
〔年齢3区分別の人口構成比〕



※数値は四捨五入しているため合計が一致しない場合があります
 出典：富山市将来人口推計報告書、富山市人口ビジョン

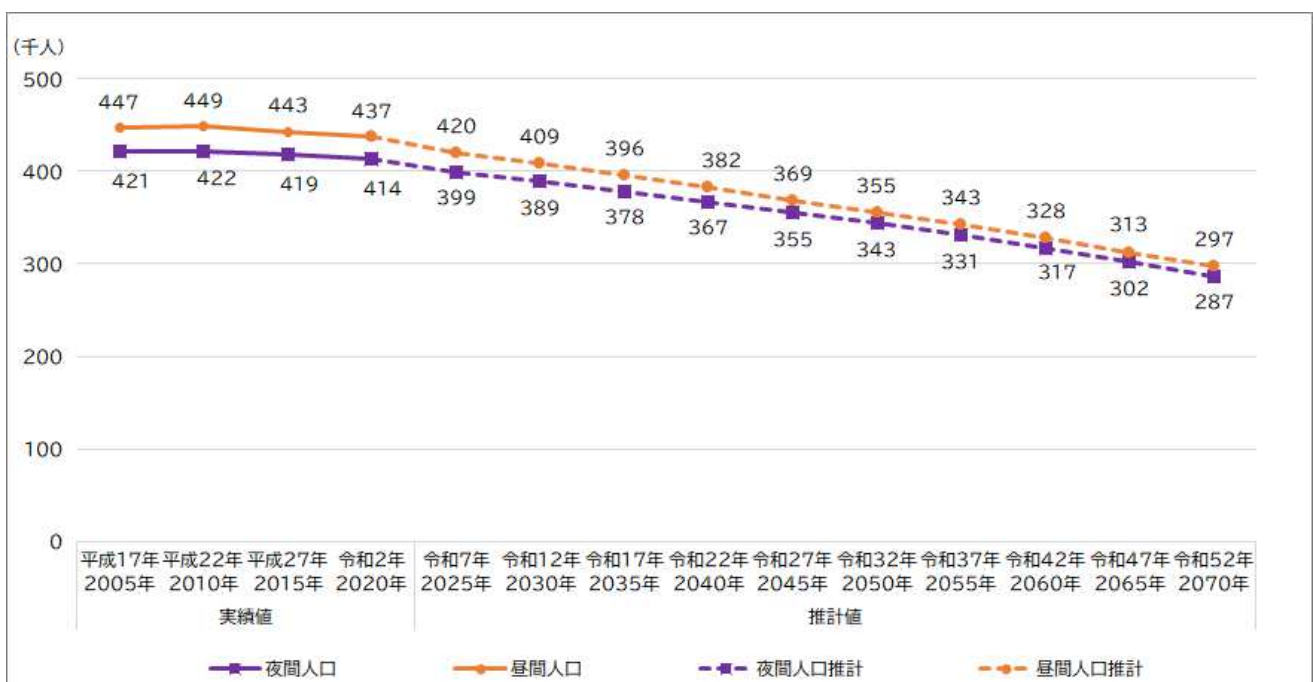
- ・一般世帯は令和12(2030)年までは増加傾向にありますが、その後減少に転じ、令和52(2070)年には約14万5千世帯になると見込まれています。
- ・世帯主が65歳以上の世帯は世帯数が減少に転じた以降も増加傾向にあります。令和27(2045)年には一般世帯の半数の世帯主が65歳以上になることが見込まれています。
- ・一世帯あたり人員数は核家族化・単身世帯等の増加により減少傾向にあり、令和17(2035)年には2人を下回ると見込まれています。

[世帯数と一世帯あたり人員数の将来見通し]



- ・昼間人口は平成22(2010)年から減少に転じており、昼間人口と夜間人口の差は小さくなるものと見込まれています。

[昼夜間人口の将来見通し]

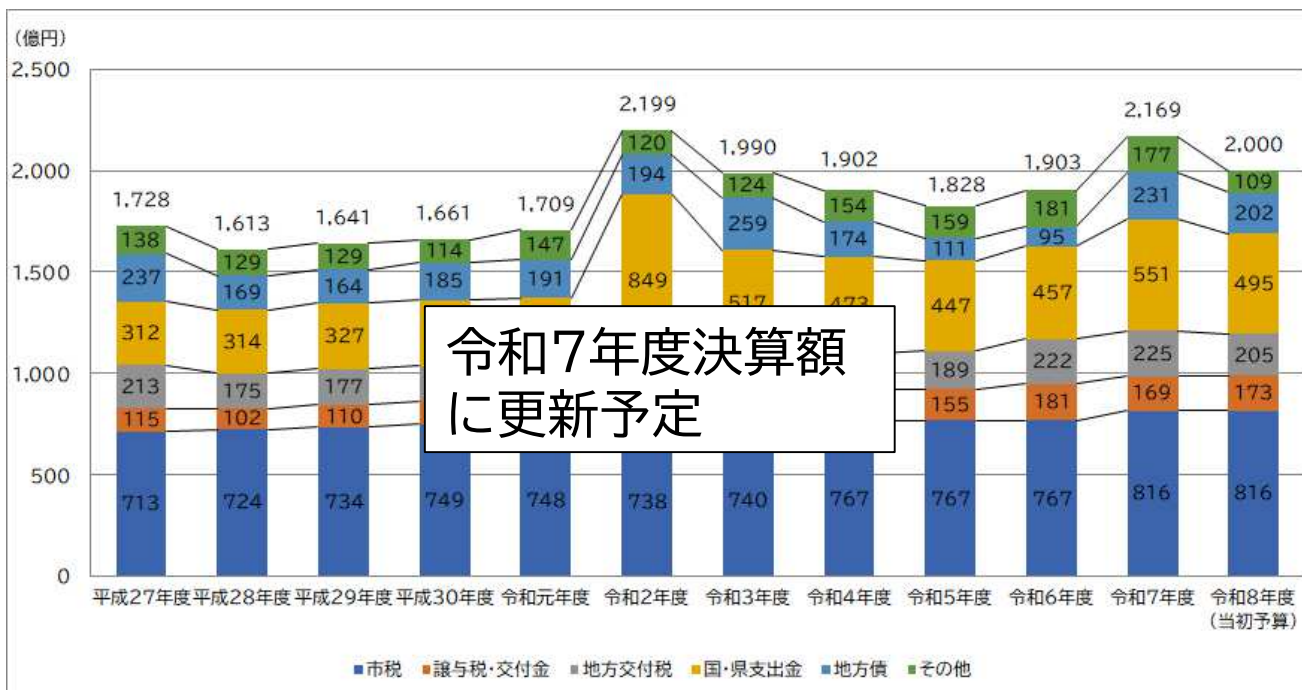


※数値は四捨五入しているため合計が一致しない場合があります
出典：富山市将来人口推計報告書

3 富山市の財政状況

- ・ 歳入総額は令和2(2020)年度から令和5(2023)年度まで減少傾向にありましたが、その後増加に転じ、令和7(2025)年度は●●億円でした。
- ・ 市税は平成27(2015)年度から増加傾向にあり、令和2(2020)年度は減少しましたが、その後増加に転じ、令和7(2025)年度は●●億円でした。

〔歳入総額の推移(普通会計)〕



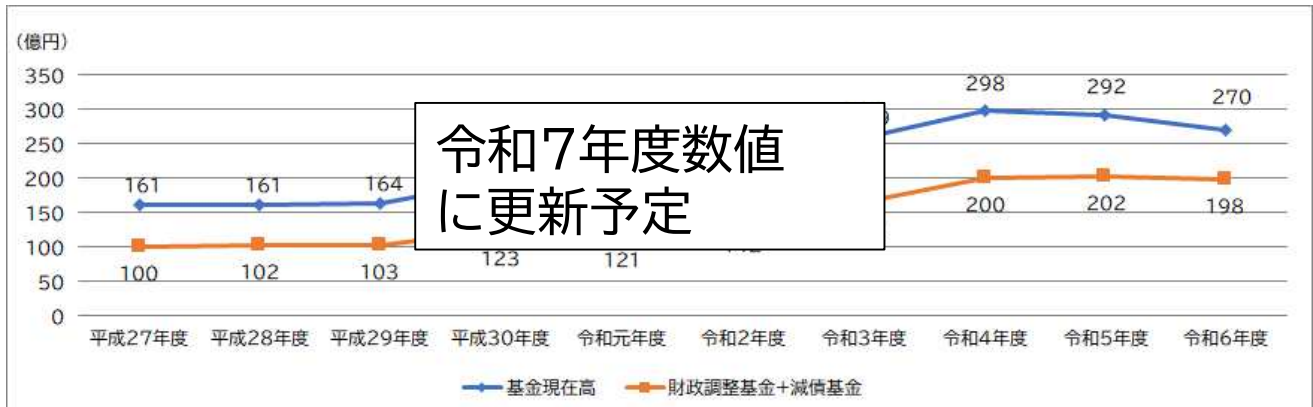
- ・ 歳出総額は令和2(2020)年度から令和5(2023)年度まで減少傾向にありましたが、その後増加に転じ、令和7(2025)年度の歳出総額は●●億円でした。
- ・ 人件費・扶助費・公債費を合わせた義務的経費全体は平成27(2015)年度から増加傾向にあり、令和7(2025)年度は●●億円でした。

〔歳出総額の推移(普通会計)〕

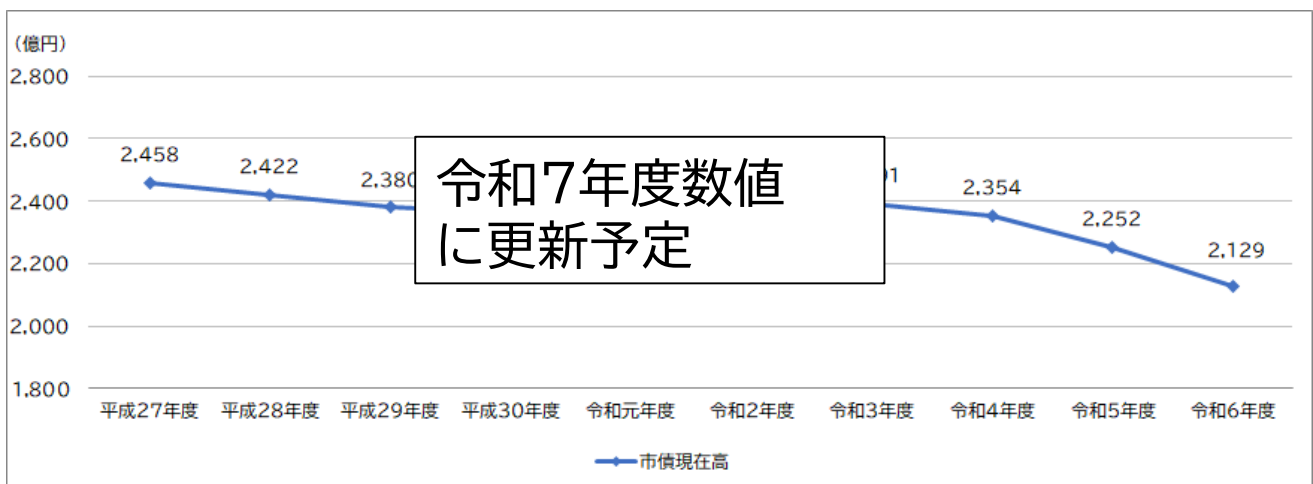


- 基金は平成27(2015)年度から令和4(2022)年度までは増加傾向にありましたが、その後減少に転じ、令和6(2024)年度の基金残高は270億円でした。
- 市債現在高は平成27(2015)年度から減少傾向にあり、令和6(2024)年度の市債現在高は2,129億円でした。

[基金現在高の推移(普通会計)]



[市債現在高の推移(普通会計)]



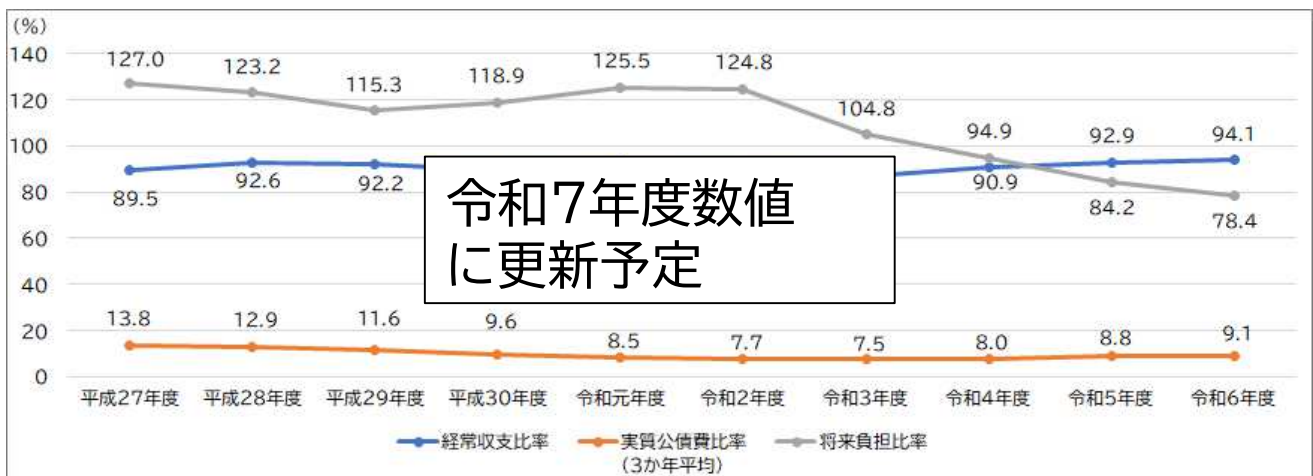
- 経常収支比率は令和3(2021)年度までは上昇と低下を繰り返していましたが、その後上昇に転じ、令和6(2024)年度は94.1%でした。
- 実質公債費比率は平成27(2015)年度から令和3(2021)年度までは低下傾向にありましたが、その後上昇に転じ、令和6(2024)年度は9.1%でした。
- 将来負担比率は平成29(2017)年度から令和2(2020)年度までは上昇傾向にありましたが、その後低下に転じ、令和6(2024)年度は78.4%でした。

※経常収支比率: 財政構造の弾力性を判断する指標、比率が低いと財政の自由度が高い。(令和6年度中核市平均93.2%)

※実質公債費比率: 公債費に係る財政負担を表す指標、比率が高いと財政が硬直化する。(令和6年度中核市平均5.2%)

※将来負担比率: 将来財政を圧迫する可能性を示す指標、比率が低いと将来の負担が少ない。(令和6年度中核市平均52.6%)

[財政状況の推移]



第Ⅲ部 基本構想

1 将来の都市像

将来の都市像

幸せ日本一のまち・とやま

— 誰もが挑戦でき、支え合い、生き活きと心豊かに暮らせる持続可能な都市へ

都市像を実現した未来スケッチ

「幸せ日本一のまち・とやま」を実現するため、「ひと」と「まち」の両輪から未来を描きます。

幸せ日本一のまち・とやま

— 誰もが挑戦でき、支え合い、生き活きと心豊かに暮らせる持続可能な都市へ



wheel 1 | ひと

誰もが自分らしく学び、
充実した日々の中で
富山での暮らしに誇りを持てる社会

wheel 2 | まち

暮らしやすく移動しやすい、
自然災害や社会変化にも
対応できる都市

将来の都市像に込めた思い

富山市がこれからの姿を描くにあたって、大切にしたいと考えたのは「幸せ」という言葉です。一人ひとりが「幸せ」と感じるからこそ、社会全体を支える力になるからです。

市民の皆さんにとっての「幸せ」とは何でしょうか。家族と安心して暮らすこと、やりたいことに挑戦できること、地域の仲間と支え合うこと…。一人ひとりの幸せが積み重なって、社会全体の幸せへと広がっていきます。富山市が**目指す**のは、そうした小さな幸せが循環し、大きな力となり、その幸せを未来へとつなぐ都市です。

その中心にあるのが「ひと」です。市民一人ひとりが安心でき、自分らしさを発揮し、人とのつながりの中で楽しみを見つけ、充実した日々を送ることが欠かせません。誰もが自分らしく学び、働き、富山の暮らしに誇りを持てる社会を目指します。

同時に、「まち」がその社会を支える基盤となります。交通や防災、美しい自然といった暮らしの土台が整い、先人たちが紡いできた伝統文化が守られ、新しい文化や賑わいが育まれていくことが、市民の生活をより豊かにします。暮らしやすく移動しやすい、自然災害や社会変化にも対応できる、持続可能な都市を築いていきます。

「ひと」と「まち」の両輪がともに輝くとき、誰もが幸せを感じ、夢と希望を持って暮らせる、「幸せ日本一のまち・とやま」が実現します。

2 10年後の市民が実感している幸せ —分野別のありたい姿

「ひと」と「まち」の両輪が輝く「幸せ日本一のまち・とやま」を、もう少し具体的にイメージしましょう。市政を14の分野に分けて、10年後の市民が実感している「幸せ」をみんなで考えました。

ひと

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 結婚・出産・子育て |
| 2 | 教育 |
| 3 | 健康・医療・福祉 |
| 4 | スポーツ |
| 5 | 地域コミュニティ |
| 6 | 郷土愛 |
| 7 | 行政・パートナーシップ |

まち

- | | |
|----|-------|
| 8 | 都市・交通 |
| 9 | 防災・防犯 |
| 10 | 産業・雇用 |
| 11 | 観光・交流 |
| 12 | 農林水産 |
| 13 | 環境 |
| 14 | 文化・芸術 |



2036年
市民の
幸せ実感

自分らしく描く未来への希望。
描いた希望が叶うって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

- ① 若い世代が安心して結婚や出産を考え、希望を叶えている。

経済的な不安や仕事と家庭の両立の課題を減らし、安心して家庭を築ける環境が整っています。

- ② 妊娠・出産から子育てまで、切れ目なく安心して支援を受けられている。

妊娠期から子育て期まで、途切れることなく様々な相談や支援が受けられる体制が整い、子育て家庭の孤立を防いでいます。

- ③ 子どもが健やかに育ち、子育てに「喜び」や「生きがい」を感じている。

安心して子育てができ、家庭や地域で子どもの成長を共に喜べる環境になっています。

- ④ 地域がつながり、子どもを安心して育てられる「子育てにやさしいまち」になっている。

地域や企業が協力し合い、子育て家庭を支える仕組みが広がり、こどもまんなか社会が実現しています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 結婚って楽しい！と思える社会になっているといいと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 安心して妊娠、出産、子育てができるような社会になっていることを望みます。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 働く親が、小学生の子どもを安心して預けられる場所を作ってほしいです。(富山市こども計画／子ども・子育て支援に関するニーズ調査)
- ・ 子どもが大きな声を出した時に、「子どもはそういうものだ」という対応をしてくれた時は安心しました。(富山市こども計画／子ども・子育て支援に関するニーズ調査)



2036年
市民の
幸せ実感

いつでも、どこでも、誰でも。
思うように学べるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

①

子どもが、自分の興味や得意を生かしながら学ぶことを楽しみ、将来に希望を感じている。

学びを楽しむことができる環境下で、主体性を育みながら自分の得意や好きなことを伸ばし、一人ひとりが自分らしい未来を思い描いています。

②

保護者や地域の人と学校が力を合わせ、子どもをみんなで育てている。

学校だけでなく、家庭や地域などみんなが子どもの教育に参加・協力して、子どもの豊かな成長を支える社会になっています。

③

一人ひとりの子どもが、自分に合った学び方を選んでいる。

登校が難しい子どもを含め、すべての子どもが多様な学びの場の中から自分に合った環境を選び、安心して学んでいます。

④

年齢に関係なく、誰もが学び続け、新しいことに挑戦している。

子どもから高齢者まで、学ぶ喜びをいつまでも感じることができています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 子どもの健康、発達によらず、のびのびと遊び、学ぶことが出来ていることを望みます。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 先生方の労働環境やメンタルヘルスにも配慮してほしいと思います。(富山市こども計画／子ども・子育て支援に関するニーズ調査)
- ・ 家以外で勉強できる場所を作してほしいです。やっぱり人と話すと大切だと思うから。(富山市こども計画／富山市子どもの生活実態調査)
- ・ いくつになっても勉強し、学べるのが理想だと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)



2036年
市民の
幸せ実感

困ったとき、助けてくれるひとがいる。
この地域で暮らせて、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

- ① 市民が、自ら健康づくりに取り組み、いきいきと暮らしている。

運動や食生活改善などの生活習慣病予防や、検診の受診による早期発見・早期治療の取組が広がり、健康寿命が延びています。

- ② 地域の人々が、つながり合い、誰も孤立していない。

地域住民や地域の多様な主体のつながりが広がり、困りごとを抱える人も地域の中で安心して暮らせています。

- ③ 高齢者や障害のある人が、自分らしく、安心して地域で暮らし、活躍している。

高齢者や障害のある人に対して、介護や福祉サービスが整い、一人ひとりが尊重され、地域で役割を持ちながら生活しています。

- ④ 医療・保健・福祉が、切れ目なく連携し、誰もが住み慣れた地域で必要な支援を受けられている。

医療機関と保健・福祉・介護サービスが連携し、必要な支援の途切れがなく安心できる体制が整っています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 10年後も、健康に家族と暮らしたいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 困ったときに、手助けしてくれる人がいると安心できる未来になると思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 障害のある人を含めた地域のイベントを実施して、常日頃から顔見知りになるようにしたい。(富山市地域福祉計画／地域懇談会)
- ・ 社会を支えてきた高齢者に、必要な支援が届く社会になってほしいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)



2036年
市民の
幸せ実感

「する」のも、「観る」のも。
スポーツで盛り上がるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

- ① 誰もが自分に合ったスポーツを、気軽に続けて楽しんでいる。

子どもから高齢者まで、健康づくりや趣味として、スポーツやレクリエーション活動が日常にあります。

- ② 地元プロチームや国際大会を、家族や仲間と一緒に熱く応援している。

観戦を楽しむ人の輪が広がり、市外・県外から訪れるファンも増えています。応援する楽しさが地域の会話や交流を広げています。

- ③ スポーツを支える(育てる)人たちが、やりがいを持って活動している。

スポーツ指導者の力により、初心者からプロを目指す人まで、より楽しくスポーツできています。

- ④ スポーツを通して、多くの人が集い、つながり、交流している。

地域のスポーツ情報がすぐに分かり、コミュニティやまちなかのアリーナなどに多くの人が集まっています。

【姿のもとになった市民の声】

- 一緒にスポーツする仲間がいると嬉しいです。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- スポーツチームと一体になれると、楽しいと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 富山の選手がトッププレイヤーになると、その競技の関心度が上がる。競技力が向上することで、富山のスポーツが盛り上がると思う。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- スポーツに力を入れていることは市民の活気にもつながると思います。(市民意識調査)



2036年
市民の
幸せ実感

先人たちが紡いだ地域の絆。
未来につなぐ、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 多様な人が、互いを認め、支え、高めあっている。

男性・女性、若者・高齢者、障害者、外国人など、誰もが地域に居場所や活躍の場を持ち、安心して**生き生き**と暮らしています。

② 地域の人材が、やりがいを持って地域を支えている。

ICTを活用した負担軽減を図りつつ、町内会や消防団、地域福祉活動などに積極的に参加し、防災や防犯をはじめとした自分の役割に誇りを感じながら活動しています。

③ コミュニティの拠点が、**賑わい**を生んでいる。

公民館等に人が集まり、住民同士の交流や活動が広がり、地域に活気をもたらしています。

④ 地域の祭りや歴史、自然が、誇りとして受け継がれている。

地域の祭りや伝統文化が賑わいを見せ、世代を超えて故郷を愛する心が育まれています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・「違っていても、それが良いね」と言える富山になってほしいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・失敗をたくさん重ねるようなことも必要。失敗しても大丈夫だと、みんなが感じられるような社会になってほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・おわら風の盆などの伝統文化は、担い手も減ってきているため、街並みと合わせて守っていくべきだと思います。(富山市都市マスタープラン／高校3年生WEBアンケート調査)
- ・その地域ならではのことが、形になっていることを期待します。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)



2036年
市民の
幸せ実感

「AMAZING TOYAMA」が、ここにある。
富山に生まれて、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 富山の魅力が、戦略的に発信されている。

富山ならではの魅力が効果的に伝えられ、暮らしたい、訪れたいと思われる「選ばれるまち」になっています。

② ふるさとへの共感が、内外で広がっている。

市民と市外の人々との交流を通じて、富山への愛着やつながりが強まり、関係人口が増えています。

③ 市民が、誇りを持って郷土を語っている。

富山の良さを自分の言葉で語り、日常の中から「AMAZING TOYAMA」を発信しています。

④ 郷土愛が、次の世代へ着実に受け継がれている。

学校・家庭での教育や地域活動を通じて、子どもから大人まで、まちを大切に思う心を共有しています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 10年後、自分にとって「自慢の富山」にしたいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 住んでいる地域の自慢ポイントはココ！と言えるようになりたい。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 富山の人、実は富山のことをあまり知らない人が多いと思います。それを変えていきたいです。(富山県未来共創セッション)
- ・ 息子が夏休みの宿題で富山城の絵を描いた時に、ふと自分も子供の時に書いたことを思い出し、些細な幸せを感じました。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)



2036年
市民の
幸せ実感

幸せ日本一のまち。
オール富山で創る、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 市民と行政が、共にまちを創っている。

声を上げやすく、まちづくりに参加しやすい仕組みの中で、市民と行政が一緒にまちを創っています。

② 多様な主体が、力を合わせて未来をつないでいる。

県や大学、企業等と市が手を取り合い、連携の力で持続可能なまちづくりを進めています。

③ 職員が、チャレンジを楽しみながら成長し続けている。

全ての職員が市民とともに考えながら、前例にとらわれず挑戦し、多様化する課題に柔軟に取り組んでいます。

④ 公共施設が、賢く使われ未来につながっている。

学校やホール、スポーツ施設などがこれからの時代に合うよう見直され、官民連携や市民協働で持続的に活用されています。

【姿のもとになった市民の声】

- 誰かが作ったまちを受け取るのではなくて、自分たちで創っていくんだと思います。(富山県未来共創セッション)
- 公共施設が気軽に使えるようになっていて良いと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 若い職員が、自分達の感性で未来の富山をデザインして欲しい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)

2036年
市民の
幸せ実感

コンパクトシティといえば富山。
便利なまちに住めるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 公共交通が、暮らしの真ん中で頼りにされている。

コンパクトシティの推進で電車やバスが便利につながり、多くの人が公共交通沿線に住むことで、車に過度に依存しない生活ができるまちになっています。

② まちの拠点が、賑わいと魅力を生み出している。

中心市街地や地域の拠点が整備され、買い物や交流、仕事の場として活気があふれています。

③ 郊外や中山間地域なども、暮らしやすさが守られている。

公共交通や生活道路の確保、そしてスマートシティ政策の推進により、多様な住まいを選べる環境が整っています。

④ 公共インフラが、未来に向けて賢く管理されている。

道路や橋、水道管などが計画的に整備・維持管理・更新され、持続可能で安全なまちになっています。

【姿のもとになった市民の声】



- 子どもと一緒に路面電車に乗っている時に、一緒に車窓を眺めることが好きなので、将来孫とも乗りたいです。マイカーでは体験できない贅沢だと思います。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- 富山市中心部に拠点を集中させることで市民にとって生活しやすい環境をつくり、その他の場所は放置するのではなく、その地域の自然の豊かさや伝統を引き継いでいくことが出来れば良いと思う。(富山市都市マスタープラン／高校3年生WEBアンケート調査)
- 運転することができないこどもやお年寄りにとって住みやすい富山になってほしいです。(こども意見表明交流会)
- 地区センターなど1つのところに、地域の施設がコンパクトにまとまっていると良い。(富山県未来共創セッション)



2036年
市民の
幸せ実感

「もしもの時」を想定内に。
「備え」で守る、身近な幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 市民が、災害のときに落ち着いて避難し、命を守っている。

市民自らが日頃の訓練と備えで培った正しい知識により、いざという時も迷わず落ち着いて行動できるようになっています。

② 地域の人が互いに声をかけ合い、事故や犯罪の少ないまちで安心して暮らしている。

除雪や見守りといった地域の活動にやりがいを感じながら助け合い、警察とも連携しながら防犯意識が高まり、子どもから高齢者まで安心して過ごさせています。

③ 道路や建物が災害に強く、いざという時に対応できる安心なまちになっている。

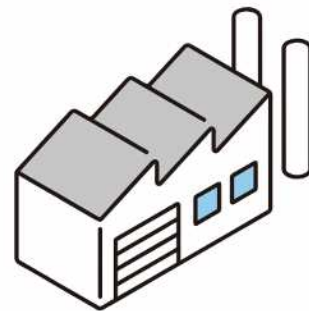
公共施設・インフラの耐震化等により、まちの強靱化が進み、災害時も安心で、普段も安全に暮らせています。

④ 消防・救急の体制が整い、いざという時にすぐ駆けつけてもらえる。

もしもの時に確実に対応してくれる消防や救急などの体制や、市民による応急手当の技術の向上により、市民が安心して暮らせています。

【姿のもとになった市民の声】

- 令和6年能登半島地震では、津波に対する知識不足や、避難所運営における課題が見つかった。これを生かして今後に備えるべき。(能登半島地震における課題等についてのアンケート調査)
- 自分の住む地域は地域で守るため、実践・行動を考えていきたいです。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 安全安心な暮らしのためには、地域の全ての世代が連携すべきだと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 歩行者・自転車・自動車がぶつかる危険のない、安全な道路になってほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)

2036年
市民の
幸せ実感富山でなら、挑戦できる。
働くって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 産業が、稼ぐチカラを高めている。

DX推進などにより企業が生産性を高めつつ、地域資源や先端技術を生かした新しい産業も生まれ、全国から企業や人材が集まっています。

② 人材が、未来を担う力を身につけている。

次世代を担う若者が、富山の産業を知ること、地元への愛着が育まれています。さらに専門教育や産学官民の連携により、若者や働く世代がスキルを磨いています。

③ 多様な人材が、様々な働き方で活躍している。

男性・女性、若者・高齢者、障害者、外国人など、誰もがそれぞれに合った環境で安心して働いています。

④ 多くの人が、富山で就職や創業し、活き活きと働いている。

UIターン就職や創業にチャレンジしやすい環境づくりが進み、まちに新しい活力がもたらされています。

【姿のもとになった市民の声】



- ・ 仕事と家庭の両立がしやすい、働きやすい職場が増えるといいな。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 障害者も一緒に働ける場所、企業がたくさんあるようになることを望みます。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 年を取っても生き生きと働ける社会になってほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 新しい事業も起こしやすく、他県からも移住している人が増えている富山になってほしい。(富山県未来共創セッション)

2036年
市民の
幸せ実感10年後も「行くべき都市」。
世界中から人が来るって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

- ① 世界からの旅行者が、まちなかと山・海を回って長く滞在している。

インバウンド観光の充実で、都市と自然の両方を楽しめる滞在型観光が広がっています。

- ② 市民や来訪者が、ガラスや食など富山ならではの体験を楽しんでいる。

「すしのまちとやま」「ガラスの街とやま」や富山の食・くすりなど、富山の文化を生かした体験型観光が定着しています。

- ③ 国際会議や交流イベントが、仕事と観光の賑わいを広げている。

MICE誘致や大規模イベントで人が集まり、交流と経済の好循環が生まれています。

- ④ 富山を何度も訪れる人が増え、地域と深くつながっている。

季節を変えて通うリピーターや二地域居住者が増え、関係人口が着実に拡大しています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 海や川など、富山の水辺は都会にはない美しさがあると思います。これを生かしてほしいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 富山の食を目当てに、海外からたくさんの人たちが来てほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 人とのつながりが新しいつながりを生むようになっているといい。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)

2036年
市民の
幸せ実感

富山湾から立山まで。
とやまの恵みで稼げるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 農業が、多彩な作物を育み、食卓と地域を支えている。

スマート農業や有機農業、高収益作物により、持続的で魅力ある農業が広がっています。

② 林業が、森を守りながら地域を潤している。

森林整備と市産材の活用により、環境保全と地域経済の両立が進んでいます。

③ 水産業が、富山湾の恵みで全国の人を楽しませている。

漁業の効率化により生産性が向上し、PR強化により魚介類のブランド力が高まっています。

④ 都市と農山漁村が、交流で結ばれている。

農業体験や都市住民との交流などを通じて、人と地域が結びつき、担い手の確保につながっています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 全国に誇れる、野菜や果物をつくってほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 地元の新鮮な食材が、気軽に入手できるようになっていると良い。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 富山湾で獲れる魚を使ったお寿司が富山市の魅力。外国人観光客にもっと富山の魚のおいしさをPRしていくべき。(富山市都市マスタープラン／高校3年生WEBアンケート調査)
- ・ 山と触れ合って山菜を採ったり、ハイキングに行ったりするようなライフスタイルが根付くと良いと思う。(富山県未来共創セッション)

2036年
市民の
幸せ実感

わたしたちの行動が、未来を変える。
守るべき環境があるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 豊かな自然が、美しいまちと調和している。

森里川海の豊かな自然環境が保全され、身近に自然を感じながら心地よく暮らせるまちを実現しています。

② まちが快適で、清潔な生活環境が守られている。

環境の管理が徹底され、まちを汚さないための取組が進んでいます。空き家や空き地が適切に管理され、清潔で健康的な環境が守られています。

③ ごみが減り、資源が循環している。

市民の環境リテラシー向上により分別とリサイクルがさらに進み、ものを大切に使う暮らしが広がっています。市民・企業・行政が協力し、サーキュラーエコノミーの取組が進んでいます。

④ 太陽光や水力などのエネルギーが、まちを動かしている。

太陽光や小水力などの再生可能エネルギーが暮らしに溶け込み、省エネな生活と合わせてゼロカーボンシティに近づいています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 緑がもっと増えて、リラックスできる空間が広がるといいな。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ リサイクルや循環が進んでいる素晴らしい富山になってほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 子どもたちへ、水や環境を守るための環境教育を進めてほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 無駄なゴミを出さず、電気を大切に使うことを心がけたい。そして水力発電や太陽光発電で生まれる電力を、次の世代にも使ってもらいたいです。(富山市次世代エネルギーパーク見学ツアー／アンケート)



2036年
市民の
幸せ実感

アートが息づく日常がある。
「本物」が身近にあるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 富山の文化と芸術が、世界へ響き渡っている。

富山のガラスや音楽・舞台芸術が世界中から注目を集め、国際的な文化都市としての存在感を高めています。

② 文化が、産業や観光、まちづくりと結びついている。

富山の歴史・文化・芸術を商業・観光と融合させ、新たな産業や都市の魅力を育てています。

③ 市民が、日常の中で芸術を楽しんでいる。

音楽や舞台芸術、美術などに触れる機会が身近にあり、誰もが気軽に創作や鑑賞を楽しんでいます。

④ 富山の歴史と伝統が、大切に受け継がれている。

歴史的建造物や伝統芸能などの文化遺産を保存・活用し、まちの誇りとして次世代につないでいます。

【姿のもとになった市民の声】

- 富山のまちなかが、芸術であふれるようなまちづくりをしてほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- 好きな事に興じられる、共通の仲間といつでも会えるといいなと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 10年後、富山が誇るべき文化・伝統行事が残っていてほしい。(富山県未来共創セッション)

背景に富山市の風景などの写真を挿入

3 富山市の暮らしを支える都市のかたち

「将来の都市像」や「分野別のありたい姿」の実現には、その取組を支える**まちづくり**の方向性を、共通の認識として整理することが不可欠です。人口減少や財政制約が進む中、富山市が持続的に機能し続けるための**コンパクトシティ政策**と、**市民や地域の課題をデジタル技術やデータの利活用により解決するスマートシティ政策**を基本構想に位置付けます。

(1)都市の再構築によるコンパクトなまちづくり

基本的な考え方

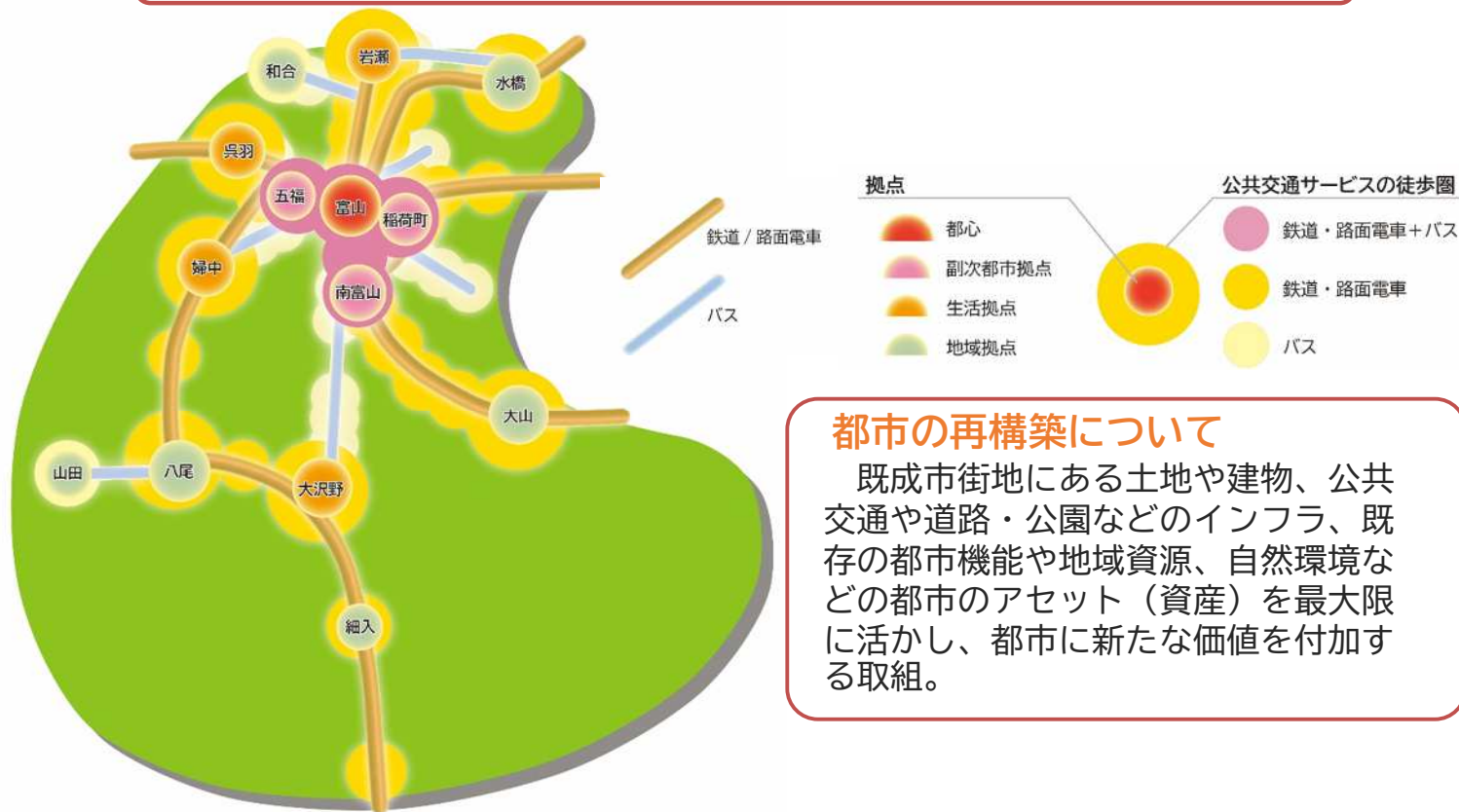
市街地の外延化や低密度化の抑制が引き続き必要な中、人口減少や高齢化のさらなる進行に加え、世帯数も減少に転じることから、使われない土地や建物の増加による生活環境の悪化や、地域の生活サービスの維持が一層困難となることが懸念されています。

将来にわたり持続可能で活力ある都市であり続けるため、公共交通の活性化と、その沿線に居住や都市機能の集約化を図るコンパクトなまちづくりを継続します。

さらに、地域資源を生かした拠点形成や既成市街地の利活用による「公共交通を軸とした都市の再構築による拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の実現を、市民や事業者等とともに目指します。

<都市の再構築により目指すお団子と串の都市構造>

使いやすい「串」 : 利便性や質の高い公共交通
色付けされた「お団子」 : 串で結ばれた特色ある徒歩圏



都市の再構築について

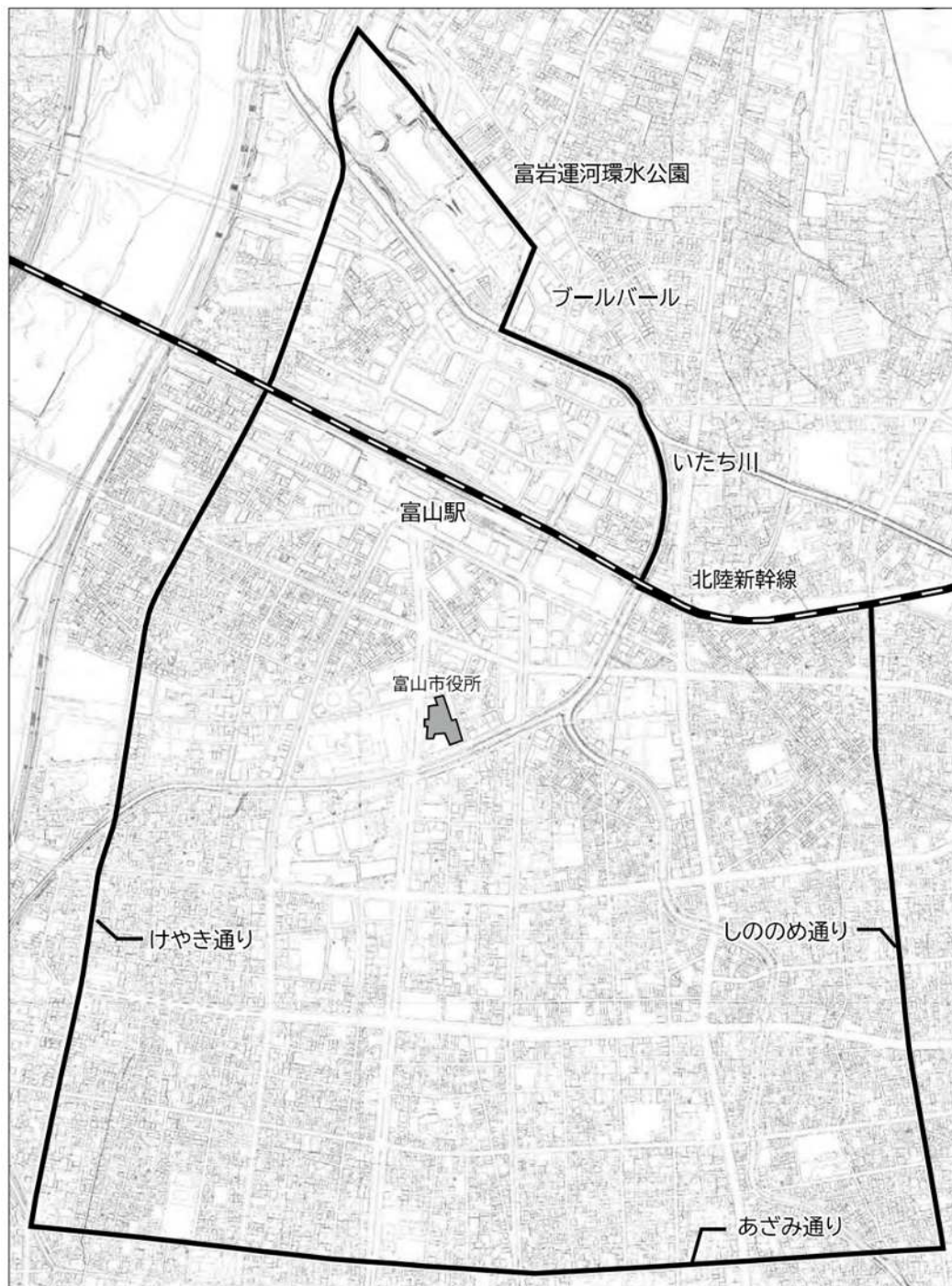
既成市街地にある土地や建物、公共交通や道路・公園などのインフラ、既存の都市機能や地域資源、自然環境などの都市のアセット（資産）を最大限に活かし、都市に新たな価値を付加する取組。

市域全体の広域的な拠点である「都心地区」と、日常生活を支える各地域の拠点を「地域生活拠点」に位置付け、それぞれの役割に応じた都市機能の充実を図ります。

また、都心地区や地域生活拠点を結ぶ公共交通軸の維持・改善に加え、公共交通へのアクセスを支える身近な生活交通サービスの確保を図ります。

こうした取組により、地域資源を生かした拠点形成や既成市街地の利活用を推進するとともに、特色ある徒歩圏(お団子)と利便性や質の高い公共交通(串)からなる多核型の都市構造を目指します。

都心地区の範囲



※ 東側の境界は、しのめ通り(一般県道八幡田・稲荷線及び市道大泉稲荷線)、南側の境界は、あざみ通り(市道磯部大泉線及び市道磯部大泉2号線)、西側の境界は、けやき通り(市道神通町蜷川線)、北側の境界は、富岩運河環水公園、ブルバール、いたち川、北陸新幹線で囲まれる面積約436haの地区

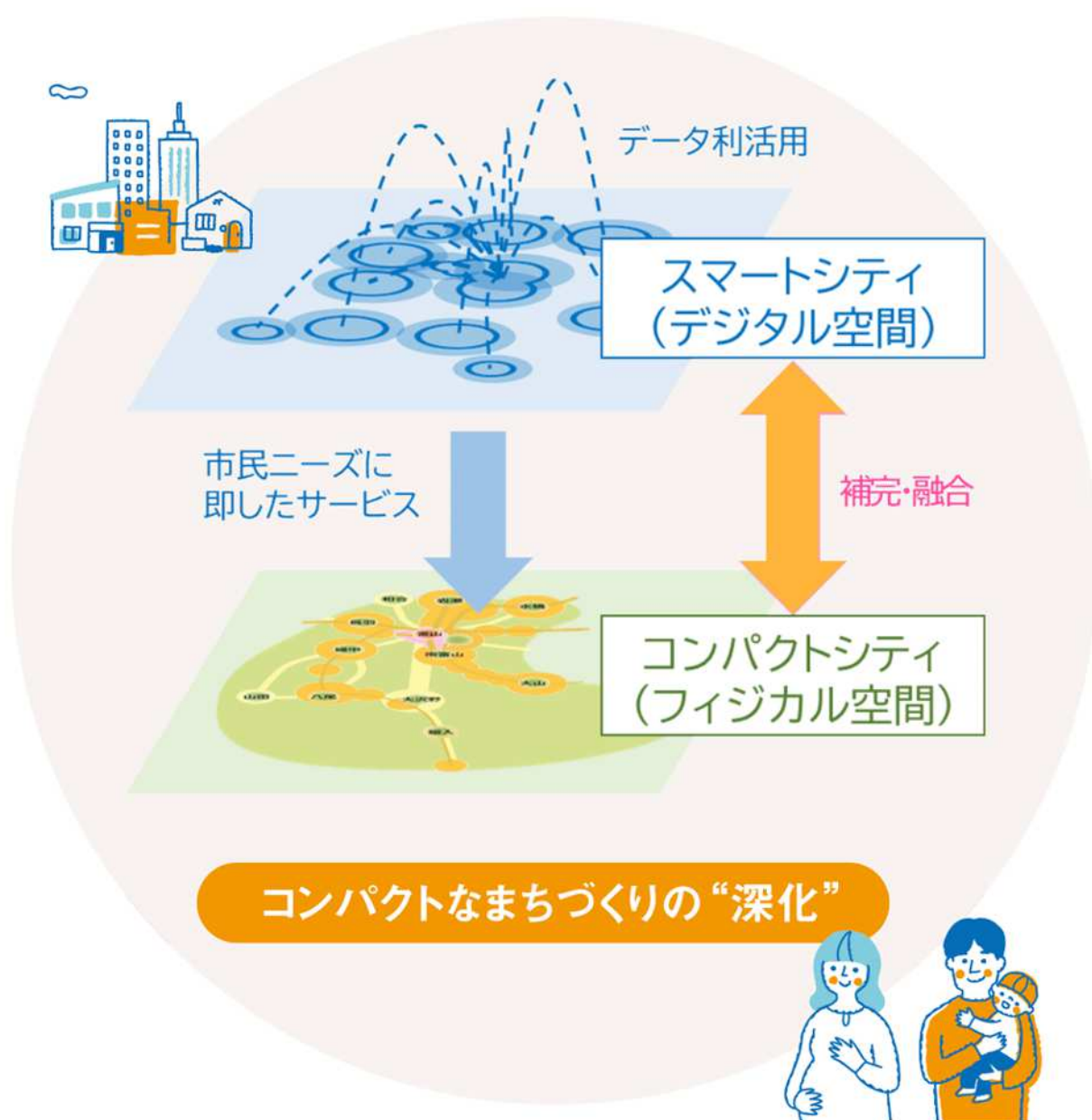
(2)スマートシティ政策によるコンパクトシティ政策の深化

コンパクトなまちづくりを支えるデジタル技術の活用

近年、ICTやAI、IoTなどの先端技術の急速な発展は、社会のあらゆる分野に革新的な変化をもたらしつつあります。

これらの社会情勢や技術革新の潮流を踏まえ、富山市がこれまで取り組んできたコンパクトシティ政策の成果を市全域に行き渡らせるとともに、市民一人ひとりが利便性や生活の質の向上を実感することのできる「富山市版スマートシティ」の実現を目指します。

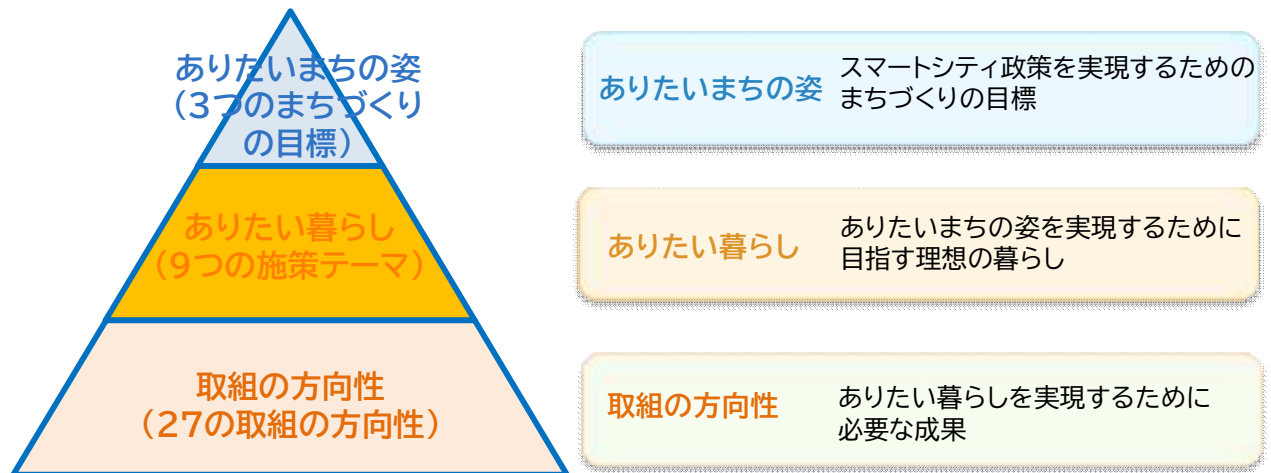
コンパクトなまちづくりを富山市版スマートシティで補完・融合し、デジタル技術の導入と得られるデータの利活用により、市民や地域の課題解決に資するサービスを官民が連携し創出する「富山市版スマートシティ」実現のための取組を推進します。



「富山市版スマートシティ」実現のための取組の方向性

コンパクトシティ政策をスマートシティ政策により深化させるためには、行政だけで推進するのではなく、産学官民による共創が不可欠です。デジタル技術を活用してどのような暮らしや地域の姿を目指すのかを明確にし、立場や視点が異なる産学官民がスマートシティの方向性を共有し行動することが重要です。

「富山市スマートシティ推進ビジョン」では、その全体像を「ありたいまちの姿」、「ありたい暮らし」、「取組の方向性」の3層で整理しています。市民一人ひとりの便利で安心な暮らしを実現し、地域の魅力や課題に応じた取組を進めることで、コンパクトシティ政策の深化につなげます。



3つの「ありたいまちの姿」

- 1 誰一人取り残されることなく便利で安心して暮らせるまち
- 2 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち
- 3 互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち

9つの「施策テーマ」／27の「取組の方向性」

01 便利な暮らし

- 車がなくても移動できる
- 必要なモノ・コト・情報を入手できる
- どこでも仕事や勉強ができる

02 安心・安全で健康な暮らし

- どこでも医療・介護・健康サービスが受けられる
- 事故や犯罪がなく治安が良い
- 雪や災害・感染症に対する備えができている

03 誇れるものがある暮らし

- 伝統や文化が大切に継承されている
- 美しく豊かな自然が維持されている
- 地域の魅力が発信できている

04 心が豊かでワクワクできる暮らし

- 個性や長所が尊重されている
- 外出したくなる個性的・魅力的な場がある
- 芸術文化・スポーツに親しんでいる

05 子どもの笑顔があふれる暮らし

- 子どもの多様な学び・交流・体験の場がある
- 学校に行くのが楽しみになる
- 地域ぐるみで子育てがサポートされている

06 若い世代の活気に満ちた暮らし

- 仕事が魅力的で働き方も多様である
- 挑戦者が応援してもらえる
- 若い世代の意見が尊重される

07 人と人のつながりがある暮らし

- 困りごとを気軽に相談できる
- 助けあい支えあいの輪が広がる
- 安心して参加できるコミュニティがある

08 地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし

- つくる人とたべる(つかう)人がつながっている
- 地域の魅力が新たな交流を生んでいる
- あらゆる活動に次世代への配慮がある

09 産学官民の共創が生まれる暮らし

- 未来への学びと対話の機会がある
- 新たなビジネスが生まれている
- 市民が主体的にまちづくりに参画している